

## 6.8.3 生物の生育・生息基盤

## (1) 調査事項

調査事項は、表 6.8.3-1 に示すとおりである。

表6.8.3-1 調査事項

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物・生態系の賦存地の改変の程度</li> <li>・新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度</li> </ul>
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存緑地の改変の程度</li> <li>・緑化計画</li> </ul>
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画地内のオープンスペース等には、植栽基盤（土壌）を整備する計画としている。</li> <li>・十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保することを検討する。</li> <li>・緑化計画の検討にあたっては、生物の生育・生息基盤等に配慮する。</li> </ul>

## (2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

## (3) 調査手法

調査手法は、表 6.8.3-2 に示すとおりである。

表6.8.3-2 調査手法

調査事項	生物・生態系の賦存地の改変の程度 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度	
調査時点	市街地再開発事業の大会前工事の終了後とした。	
調査期間	予測した事項	市街地再開発事業の大会前工事の終了後の適宜とした。
	予測条件の状況	市街地再開発事業の大会前工事の終了後の適宜とした。
	ミティゲーションの実施状況	市街地再開発事業の大会前工事の終了後の適宜とした。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とした。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。

(4) 調査結果

1) 調査結果の内容

ア. 予測した事項

(ア) 生物・生態系の賦存地の改変の程度

事業の実施に伴い、図 6.8.3-1 に示すとおり、人工構造物や人工裸地にわずかに分布していた植栽樹林群（常緑広葉、落葉広葉、混交）等が改変された。

(イ) 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度

事業の実施に伴い、市街地再開発事業として、図 6.8.3-2 に示すとおり、オープンスペース等の植栽を施す箇所の一部において、クロマツ、イロハモミジ、マテバシイ等の高・中木約 100 種・約 1,000 本、低木約 4,600 株、地被類約 2,900m<sup>2</sup>の植栽や市街地再開発事業計画地内に生育していたアキニレ及びケヤキ等の計 6 本の移植による新たな生物の生育・生息基盤が創出された。

なお、大会開催後には、市街地再開発事業として、残りの植栽を実施する計画である。

イ. 予測条件の状況

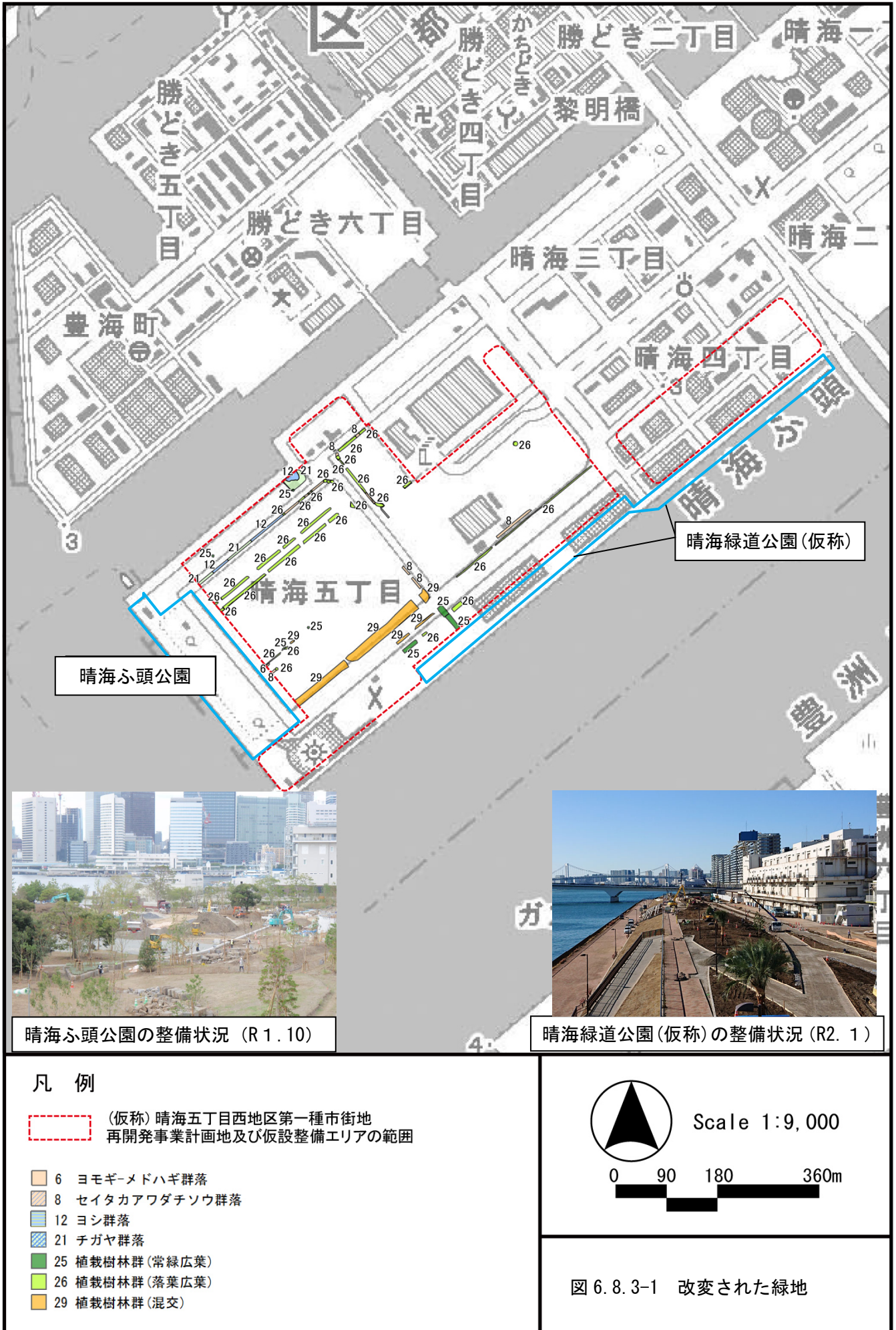
(ア) 既存緑地の改変の程度

「ア. 予測した事項」に示したとおり、既存の植栽樹林群等が計画に基づき改変されたこと、また、市街地再開発事業として植栽や移植が行われたことを確認した。

(イ) 緑化計画

緑化計画は、「6. フォローアップ調査の内容 6.1.3 緑化計画」(p. 31~32 参照) に示すとおりである。

なお、計画地周辺の晴海ふ頭公園や晴海緑道公園(仮称)では、新たな植栽基盤整備や植栽が進められている(図 6.8.3-1)。



注) 晴海ふ頭公園、晴海緑道公園(仮称)の範囲は「選手村工事かわら版 2018.10 第11号」に基づき作成。



図 6.8.3-2 緑化の状況（大会開催前）

注) 図面は、特定建築者資料に基づき作成。

## ウ. ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 6.8.3-3 に示すとおりである。

生物の生育・生息基盤に関する問合せはなかった。

表 6.8.3-3 ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	実施状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>計画地内のオープンスペース等には、植栽基盤（土壌）を整備する計画としている。</li> </ul>	<p>大会開催前には、市街地再開発事業として、オープンスペース等の植栽を施す箇所の一部において、クロマツ、イロハモミジ、マテバシイ等の既存樹種を含む高・中木約100種・約1,000本、低木約4,600株、地被類約2,900m<sup>2</sup>の植栽やアキニレやタブノキ等の広葉樹6本の移植を行い、新たな生物の生育・生息基盤を創出し（写真6.8.3-1）た。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保することを検討する。</li> </ul>	<p>市街地再開発事業として、植栽を施す箇所の一部において、高・中木・低木及び地被類の生育に十分な植栽基盤を整備し、新たな生物の生育・生息基盤を創出（写真6.8.3-1及び2）した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>緑化計画の検討にあたっては、生物の生育・生息基盤等に配慮する。</li> </ul>	<p>市街地再開発事業として、大会開催前においては、クロマツ、イロハモミジ、マテバシイ等の既存樹種を含む高・中木約100種・約1,000本、低木約4,600株、地被類約2,900m<sup>2</sup>の植栽やアキニレやタブノキ等の広葉樹6本の移植による新たな生物の生育・生息基盤の創出に配慮した計画とした。</p>



写真 6.8.3-1 植栽基盤の施工の状況



写真 6.8.3-2 植栽基盤（土壌）の状況

2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

ア. 予測した事項

(ア) 生物・生態系の賦存地の改変の程度

工事の実施に当たっては、人工構造物や人工裸地にわずかに分布していた生育・生息基盤が改変されたものの、市街地再開発事業として、オープンスペース等の植栽を施す箇所の一部において、既存樹種を含む樹木等の植栽や移植が行われた。なお、大会開催後には、市街地再開発事業として、残りの植栽を実施する計画である。

以上のことから、予測結果と同様に、生物・生態系の賦存地の改変の程度は小さいと考える。

(イ) 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度

工事の実施に当たっては、市街地再開発事業として、オープンスペース等の植栽を施す箇所の一部において、既存樹木を含む樹木等の植栽や移植が行われた。なお、大会開催後には、市街地再開発事業として、残りの植栽を実施する計画である。

以上のことから、予測結果と同様に、新たな生物の生育・生息基盤が創出されたものと考えられる。